

(6) 脳卒中重症化を予防する地域住民への取り組み

～紙人形劇を活用した民生委員への働きかけ～

医療福祉マネジメント学研究科医療福祉デザイン学専攻修士課程
医療福祉マネジメント学研究科

○埴岡康恵子
平野 聖

【目的】

脳卒中の重症化予防活動で地域包括ケアシステム推進の一助とするため、紙人形劇の動画を視聴した地域住民が、脳卒中発症時の対応を理解し行動変容の意思が動画の視聴前後で変化することを検証する。

【方法】

脳卒中重症化予防活動として民生委員が主体で行う演劇を企画した。コロナ禍のためシナリオ作成の段階で活動中止となり、そのシナリオをもとに学生が制作した紙人形劇の動画を作成し、その動画を視聴した474名を対象に視聴前後の脳卒中の理解や発症時の救急要請の意思・動画の伝達意思について調査した。

【結果】

脳卒中の理解は視聴後に低値 ($p=0.01$) だったが救急要請の意思は視聴後に増加し、動画の伝達意思は98.5%があると回答した。

【考察】

脳卒中の理解が視聴後に下がったのは、脳出血の症状である「激しい頭痛」の誤答が増加したためと考える。動画では脳梗塞の「片麻痺」「しびれ」「呂

律困難」を表現しているが、当初の演劇では事前に医療従事者による脳卒中の講習を計画していたが、動画の中に脳出血を含む脳卒中の説明が不足していたと考える。

救急要請の意思が視聴後に増加していたのは、その理由の記載で「後遺症に関わる」「4時間半」「早期治療」の言葉が含まれているものが多く、これは動画で発症時の適切な対応とそうでない対応を二つの家族の事例で強調し、救急要請の重要性が伝わり動画の効果はあったと考える。動画を伝達する意思に関しては「知識の獲得」「動画が解りやすい」「家族を守りたい」「共有したい」という理由から普及はできたと考える。しかし視聴後に理解の平均得点が低値であったことから現段階では動画のみでは脳卒中の理解にはつながらず、知識や情報を伝える機会と共に啓発活動を行うことが重要である。

【まとめ】

脳卒中重症化予防の啓発活動では、動画は効果的だが事前の講習等を併せて企画することが、より効果的で実践行動につながる。